いんふおめいしょん インフォメーション INFORMATION

参加しませんか

親と子のスポーツ教室

▼対象　5歳から小学生までの子供と親
▼日程・場所・内容
■6月12日（日）　第6向陽小学校体育館　「レクリエーション（ゲーム・ダンス）」　■19日（日）　向陽小学校体育館・西ノ岡トリムコース　「ジョギング クラフト（竹ボックリ）」　■7月3日（日）　第6向陽小学校運動場（雨天・体育館）　「軽スポーツ・ドッジボール・キックベースボール・ゲートボール」　■10日（日）　第6向陽小学校体育館　「親子体操・インディアカ」　■23日（土）・24日（日）・25日（月）　第6向陽小学校プール　「水泳」
▼講師　中川照子氏（日本レクリエーション協会一級指導員）・森政幸京都踏水会指導員・弓削啓司市教育委員会社会教育主事・体育指導委員など
▼定員　50組
▼参加費　1組300円
▼持ち物　体操服・体育館用シューズ
▼申込方法　6月10日までに市教育委員会まで参加費を添えて申込んでください
▼お問い合わせ　教育委員会社会教育課　内線322
※従来の「親子水泳教室」は、この教室に含まれます

乳幼児家庭教育学級

青少年非行が大きく問題にされている今日、あらためて親自身が子育てについて省みる必要があるのではないでしょうか。「子育て中の親」の学習の場として気軽に参加してみませんか。
▼日程・内容
■6月16日（木）　「家庭教育とは」市教育委員会社会教育主事　■21日（火）　「あそびと仲間づくり」小林一氏（きりしま保育園園長）　■23日（木）　「親の役割」佐古田春雄氏（第6向陽小学校校長）　■28日（火）　「子どもの人間学―子どもの世界と親の役割―」杉本一義氏（龍谷大学短期大学部教授）　■30日（木）　「子育ての課題」佐々木達三氏（長岡京市立第3中学校校長）　■7月5日（火）　「就学前に必要なこと」佐古田春雄氏　■7日（木）　「学習のまとめ」小林一氏
※時間はいずれも午前10時～正午
▼対象　乳幼児をもつ親または関心のある方
▼定員　50名
▼参加費　無料
▼会場　寺戸公民館
▼申込み・お問い合わせ　寺戸公民館　☎933―0031

点訳講習会

京都府盲人協会では、盲人福祉に理解と熱意のある方を対象に「点訳者養成講習会」を開きます。
▼とき　昭和58年6月～59年3月　毎月第3日曜日午後1時30分～3時30分
▼ところ　市民会館
▼内容　点（字）訳に必要な知識（点字の実技）および盲人福祉概論、その他10回の講習を通じて簡単点訳本が打てるようになります。
▼受講料　無料（点字器・教材は貸与します）
▼申込期間　6月17日まで
▼申込み・お問い合わせ　福祉課障害福祉係　内線342

市民卓球の集い

▼とき　6月5日（日）午後1時～4時
▼ところ　第3向陽小学校
▼対象　市内在住で10歳以上の方
▼主催　向日市卓球クラブ

『向日市史』会計課窓口にて1部3,600円で頒布中

『向日市史』上巻は市民のみなさんに三千六百円で頒布しています。
購入希望の方は、市役所一階の会計課窓口で代金と引き換えにお渡しします。
なお、郵送（送料400円）を希望される方は、企画課へ電話でお申し込みください。振込用紙をお送りします。
また、『向日市史』上巻について、意見・感想・質問などがありましたら、おきかせください。
▼お問い合わせ　向日市役所企画課（寺戸町中野20）　☎931―1111　内線277

募集しています

京都府歌の歌詞

▼題名・内容　自由ですが府民だれもが親しみやすく明るく新鮮なものを歓迎します。未発表の作品に限ります。
▼応募点数　1人1点に限ります。
▼応募方法　原稿用紙（B4判400字詰）を用い、歌詞にはふりがなを付けてください。なお、裏面に住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼締め切り　6月30日（郵送の場合は、当日消印有効）
▼送付先　京都府企画管理部広報課「京都府の歌　募集の係」（〒602京都市上京区下立売通新町西入　☎411―0560）
▼入賞　入賞作品（1点）には、賞状および賞金50万円、佳作（5点）には、賞状および記念品を贈呈
▼作曲　専門家に依頼
▼著作権　入賞作品の著作権は京都府に属し、応募作品は返却しません。
▼発表　11月上旬（予定）入賞者本人に通知するとともに「きょうと府民だより」（11月号）で発表

統計調査員

10月1日に総理府統計局が実施する住宅統計調査の調査員を募集します。
▼応募資格
(1)市内在住の18歳以上の方
(2)統計調査に対して熱意のある方
(3)統計調査という仕事の性質上、不適当と思われる経歴、職業を有しない方
▼募集人員　若干名
▼応募方法　市販の履歴書に記載のうえ企画課まで提出してください。
▼期限　6月10日まで
※現在、登録調査員の方は応募いただく必要がありません。
▼お問い合わせ　企画課　内線277

子宮ガン検診を受けましょう

子宮ガンと乳ガンは、いずれも検診で発見しやすく早期に発見すれば、ほぼ100％なおるガンです。
子宮ガン検診の受診状況をみると高齢者の受診者が少なく、その反面ガンの発見率は高くなっています。
向日市では、50歳、55歳60歳、65歳の婦人を対象に受診券を送付し1人でも多くの方に受診していただくための通知検診を実施しています。昨年の結果、対象者712名、受診者216名、受診率30・3％と低率でしたが、子宮筋腫、膣炎など治療を要する病気が発見されています。受診票を手に入れた方は、ぜひこの機会に受診してください。

6月の行事予定

老人福祉センター

◇休館日
5日（日）・13日（月）19日（日）・26日（日）
◇血圧測定
2日（木）・16日（木）午後1時30分～3時30分
◇独居老人昼食会
3日（金）・17日（金）午前11時30分～午後1時
◇老人セーフティクラブ
3日（金）午後2時～3時
◇健康相談
10日（金）・24日（金）午後2時～3時30分
◇高齢者職業相談
14日（火）午前10時～午後4時
◇映画会
30日（木）午後1時～3時
◇清掃の日
2日（木）午前10時30分～11時30分

ことば きこえの教室 ㉒

◎構音障害

構音障害とは、ある音について本来獲得されているべき年齢に達していても、まだ発音できない状態をさします。
3、4歳で「ウチャギ」とか「ネジュミ」と発音していても問題ありませんが、小学校に入学するころになっても同様の発音をしていれば少しおくれていることになります。
構音障害の原因は、身体的な理由の場合もありますが、多くはたまたまある音について学習しそこなった子どもです。たとえていえば、鉄棒の逆上がりができない、マット運動で前回りができないのと同じようなことです。だから、ことばの教室で練習することによって短期間で正しい音を出すことができるようになります。
向日市では、就学までにこれらの子どもをなおしてしまおうと、毎年行われる就学時検診で全児について調べ、必要な子どもについてはことばの教室で相談・指導をしています。もちろんそれ以前でも相談があれば指導しています。
「ことば」は「ちえ」の発達と関連が深いので不必要に心配されるお母さんもおられるかもしれませんが、歯医者で虫歯を治すように気軽に教室を訪れていただきますようお願いします。
（この欄についてのご感想・ご質問・ご意見をお寄せください）

ことば・きこえの相談
▽とき　毎週土曜日　午前中
▽ところ　第6向陽小
☎934―0403

身体障害者巡回更生相談

身体障害者巡回更生相談（戦傷を含む）が、次の要領で実施されます。
〔とき〕　6月20日（月）　午後1時～3時
〔ところ〕　保健センター
〔診査科目〕　整形外科・耳鼻いんこう科
〔相談内容〕　▷身体障害者手帳、補装具、更生医療、機能回復訓練、生活相談など
〔持ち物〕　印鑑、身体障害者手帳、戦傷病者手帳（すでにお持ちの方のみ）
〔お問い合わせ〕　福祉課障害福祉係　内線342

市史編さん活動日誌から㊴

寺戸の地名

高橋美久二（京都府立山城郷土資料館）

ようやくできあがった『向日市史』上巻を読むと、向日市内唯一の古代寺院願徳寺（宝菩提院）が、創建された七世紀代にも、国宝木造菩薩半伽像がつくられた九世紀代にも、さらに再興されて、「西山流」の本拠として栄えた十三世紀代にも、現在の状況では想像もできないほど重要な位置を占めていた寺院であることがわかった。
とくに、もと宝菩提院が建っていた寺戸町西野の現状をみると、かつての寺の痕跡が見い出せないほどの変わりように、感傷的にならざるを得ない。
かつては、この地域で「テラ」と言えば、この宝菩提院を指していたもので、それが「寺戸」の地名が生まれたものである。
このように、白鳳時代創建の寺院付近の地名が寺のつく地名で呼ばれている例は多く、山梨県寺本廃寺の「寺本」、岐阜県厚美寺の「寺町」、同山田寺の「寺島」、愛知県松韻寺の「寺領」、京都府城陽市正道廃寺の「寺田」、同亀岡市興野廃寺の「寺村」、和歌山県下三栖廃寺の「寺田」、鳥取県寺内廃寺の「寺内」、広島県寺町廃寺の「寺町」、同寺戸廃寺の「寺戸」などの例がある。白鳳時代の寺は一郡に一か寺ないしは、多いところでも数か寺しかなく、しかも、その当時の一般の建物の掘立柱に草葺屋根に対して、寺の建物は、礎石の上に丹塗柱、白壁、屋根瓦葺という目立つ建物であった。そのため、その寺の正式名称を呼ばなくても単にテラと言えば十分言足りたはずである。そのことが、古代寺院の近くの地名に単に寺を指し示す地名が残ったものであろう。
この古代の寺院は、前代の古墳つくりにかわる乙訓地方の有力豪族たちの権威のシンボルとしてつくられていったことは市史の中にもくわしく述べられているとおりである。古代の地方寺院は、後世の寺院のように、民衆の信仰を集めて建立されたものでなく、豪族たちの財力によっていたため、豪族の衰退により、滅ぶ例が多く、白鳳時代の寺院の多くは平安時代までに滅亡している。宝菩提院の場合は、古代の寺院が、最近まで奇蹟的に残った例と言えよう。

宝菩提院廃寺創建時の想定復原図